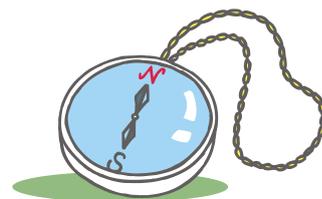


# 羅 針 盤

第 3 号

令和4年（2022年）4月25日（月）



## ◆ 一志一道（いっしいちどう）

「一志一道」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「志（こころざし）」をしっかりと持ち、自ら進むべき道をひたすらに邁進（まいしん）することを表した言葉です。面倒くさいと感じるときや、力不足に行き詰まるとき、時間に追われて余裕がないとき、誰もがそういったことを感じながらも、自分の進むべき道を見つけて一歩ずつ前へ進み行くことが大事なことであるという意味です。これまでも年度当初の全校集会に限ることなく、「志（こころざし）」をもつことの意義については、全校生徒の皆さんに、繰り返し話をしてきました。「志（こころざし）」を立てることの意義、それは、孔子（こうし）の教えがまとめられている中国の古典「論語（ろんご）」に書かれてある通り、目標を定めて物事や勉強を始めることがとても大事なことであるということです。「夢や目標を持つ」ことは、人生を豊かに過ごすためにはとても大事なことであり、新たな発想が芽生えたり、これまでとは違う行動をとることで、「チャレンジする気持ち」つまりは「志（こころざし）」を継続させてくれることへとつながっていきます。「夢や目標に向かってチャレンジすること」が、自分自身を高め、そして、磨いてくれることとなります。高い志（こころざし）をもって、成長した自分を見つけることが何よりも大事なことであるということを忘れてはいけません。自分自身が決めた目標に対して、本気でチャレンジし続けることで、今までは得ることのできなかった発想やこれまでとは違った行動を手に入れることができるはずで、そして、1年後、2年後、3年後と中学校を卒業してからの将来を見据えて、懸命に取り組むことが何よりも大切です。学校生活において、学習活動だけでなく、学級活動や部活動についても、有意義な時間を過ごすためには、「一志一道」の精神で、弛まぬ努力を一歩でも、たとえ半歩でも歩みを進めていく先に自分自身が見据えた目標が見えてくるはずで、生徒の皆さんの誰もが、一人ひとりのもつ目標に向け、成長していく自分自身の姿をたくさん見つけ出してくれることを心から願っています。

## ◆ 手塚治虫 手記「戦争」より（抜粋）

私は、暗い時代といわれた昭和初期のなかでも、実に恵まれた環境で子ども時代を過ごせたと思っています。しかしそれも、青春期には、空襲と窮乏生活によってほとんど失ってしまいました。父は戦争にとられるし、勉強はできず、腹をすかせ、大勢の友人を失いました。空襲に追われて周囲が火と死体の山となったとき、絶望して、もう世界は終末だと思ったものです。だから戦争の終わった日、空襲の心配がなくなって、いっせいに町の灯がパッとついたとき、私は思わずバンザイをし、涙をこぼしました。心の底からうれしかった。平和の幸福を満喫し、生きていてよかったと思いました。もう二度と、戦争なんか起こすまい、もう二度と、武器なんか持つまい、孫子の代までこの体験を伝えよう。子どもたちのために、当然おとなが戦争を阻止しなければならないと同時に、子ども自身がそれを拒否するような人間に育ててやらなければならないと思うのです。子どもに生きることの喜びと、大切さ、そして生命の尊厳、これを教えるしかないと思うのです。

